

博物館だより



No.170

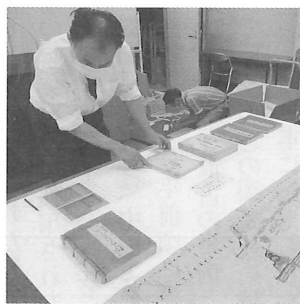
令和3年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

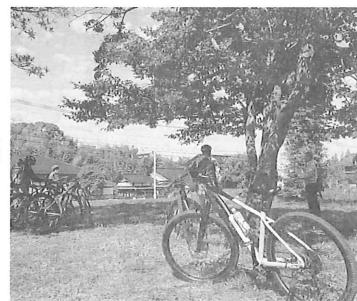
◆博物館NEWS 「世界の記憶」勢揃いへ出展!

当館で寄託収蔵する小笠原文庫(錦陵同窓会所蔵)の朝鮮通信使資料が、九州歴史資料館(小都市)へ貸出されました。これは同館で行われる企画展『朝鮮通信使と福岡』で黒田家文書とともに出展されるため、県内の通信使資料が一堂に会する企画です。

通信使資料の「世界の記憶」遺産登録3周年を記念したもので、注目の成果も勢揃いしています。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲企画展に向け資料搬出の様子 企画展は九歴にて令和3年2月14日(日)まで開催されます



▲サイクリングで訪れた豊津藩市井方役所跡 自転車だと欲張りコースも実現可能な魅力があります

「歴史散策サイクリング」を応援!

11月15日(日)に、みやこ観光まちづくり協会との共同企画で、右ネーミングの見学事業を行いました。

バスツアーやウォーキングの史跡めぐりは何度もやりましたが、サイクリスト相手は初めてで「幕末・明治のみやこを行く」と題した豊津を主舞台にしたサイクリングを初サポートしました。天気も良く、ウォーキングよりも機能的で魅力ある企画でした。

◆講座・教室・催し物ガイド 1月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
1月9日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】
1月16日(土) 10時～
- 【古典かな講座】
1月23日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】
1月30日(土) 10時～

※見学会等は別途ご案内します。
※日程等変更となる場合があります。

開催中止等決定イベントについて

博物館や文化係が所管・支援する文化事業のうち、以下の事業について中止が決定しましたのでお知らせいたします。

- ① みやこ町文化財防火点検式
1月26日(火) 開催予定を中止
- ② みやこ町三重塔まつり
2月28日(日) 開催予定を中止

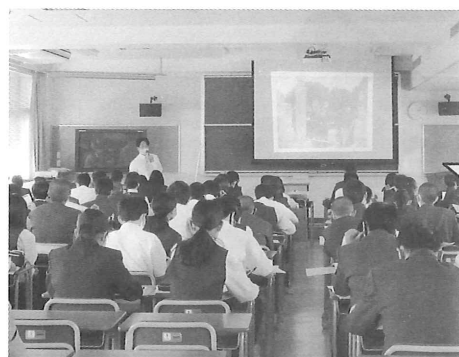
11月の業務日誌から

11月5日(木) 育徳館中学校1年生の生徒120名を対象に出前授業を行いました。学校の歴史が260年以上遡ることや、校内にみられる県内最古の学校建築「思永館」をはじめ、様々な分野で活躍した人物について詳しく学ぶことができ、この学校への思いを深めた一日となりました。

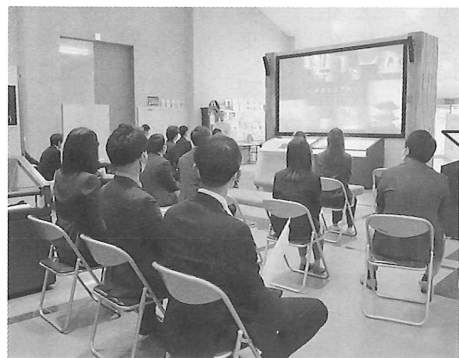
11月11日(水)、勝山中学校1年生の生徒52名を対象に町内の史跡巡りを行いました。巡った各史跡が、いずれも国や県を代表するものであることを知り、この町の文化のすばらしさや先人の土木技術の高さに驚きの様子でした。

11月6日(金)、NEC九州支社如水会の皆さんが「創業者・岩垂邦彦生誕の地に学ぶ」と題した研修で来館されました。豊津は岩垂らが新時代を学問・教育による復活を決意した地との紹介に、皆さん納得の様子でした。

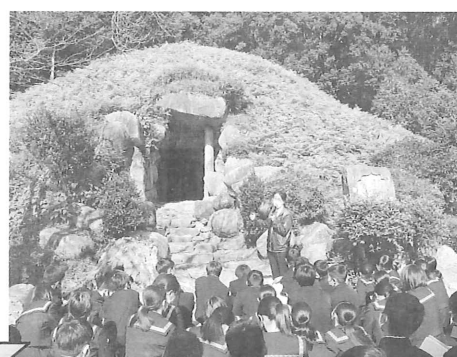
11月21日(土)、福岡県留学生会の皆さんが来館されました。観光協会の交流事業でしたが、見学後に地元交流団体との意見交換も行われ、町の観光へのナイス!な意見に来訪者目線の鋭さを再認識させられました。



▲改めて歴史と伝統に培われた学校であることを詳しく知ることができました



▲「敗者復活のみやこ」としての豊津の歴史を紹介しました



▲学校から一番近い国指定史跡「綾塚古墳」巨大な石室に圧倒されました



▲情報発信やオリジナリティの発揮など傾聴意見続出でした

みやこの歴史発見伝

133

令和とその時代 14

— 古代の文房具 ② —

「ステイホーム」と「書初め」

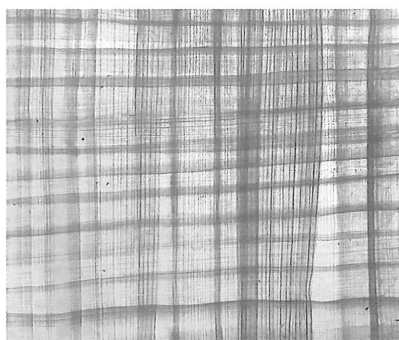
「令和」になって2回目の年明けを迎えました。今年が初詣期間の延長による分散参拝や年始の挨拶まわりの自粛が要請されるなど、昨年に引き続き、年始早々「ステイホーム」が推奨されるお正月となりました。このような状況の中、家の中でも「お正月気分」を味わうことができる、日本古来の年中行事「書初め」が改めて見直されています。「書初め」は、新年に初めて毛筆で字を書くもので、その起源は、「吉書始」と呼ばれる、古代から宮中で行われた新年の儀式とみられます。書初めは「事始め」である1月2日に行うことが多く、筆を執つて、真っ白な和紙と向き合い「新年の抱負」等を書き記すことは「古来の新年行事への回帰」とも捉えることができます。

この「書初め」に不可欠な「和紙と筆」が本格的に使用され始めたのも「令和」の歌が詠まれた奈良時代です。今回は、前回ご紹介した「墨、硯」と併せて「文房具

宝」(書に不可欠な4つの道具)を構成する「紙と筆」についてご紹介いたします。

紙の歴史

古代エジプトでは2000年ほど前まで「パピルス」という植物の繊維を縦横に交叉させ圧着乾燥させた「紙」が使用され、これが「紙」の英語表記「ペーパー」の語源とされています。しかしパピルスだけではなく粘土や木簡(文字を書くために用いられた短冊状の木板)も併せて使用されたことが確認されています。現在と同様の製法による紙は、中国で発見された約2150年前頃に書かれた地図が現存最古の事例とみられています。この製紙技術は7世紀頃には日本に伝えられたものと思われませんが、当時の紙は非常に高価なものであったため、その使用は制限され、文字による伝達



パピルスの繊維(光を透過させたもの)

令和

初春令月 氣淑風和

の多くは木簡が用いられました。木簡は一般的に墨で文字を書く用途で使用され、誤字などは「消しゴム」代わりに刀子と呼ばれる小刀で削って使用されました。中国では複数の木簡が散逸しないように紐を通して纏められ、この形状を示す単位の象形文字が「冊」で、集めて編み込んだものを「編集」、編まれた書を巻いた状態で保管したものを「巻」というように現在、私たちの生活の中で用いられている書物に関する用語の語源にもなっていることが伺えます。現在、国内で使用されている紙幣には、楮、三桠など和紙の原料が多用されています。この理由のひとつとして、和紙が他の紙素材と比較して、耐久性などに優れていることが挙げられ、この特

性は、1300年以上使用された歴史によって実証されています。

筆の歴史

筆は「文手」がその語源という説もみられます。また「毛筆」と称されるように毛や植物繊維などの束を竹筒などの軸の先端に付け、字や絵を書いたり、化粧にも用いられる道具です。中国では約2300年前の墓から細筆が出土しており、これが現存最古の事例とみられています。日本には6世紀頃に伝わったとみられますが、奈良時代頃から本格的な使用が確認されています。当時の図書寮の中には筆、墨、紙を造る部署がみられ、筆10人、墨4人、紙4人で構成されていました。

また墨と同様に現在ユネスコの

世界遺産に登録されている東大寺(奈良県)の正倉院に伝存されている「天平筆(雀頭筆)」が国内最古の事例とみられます。

未来に残る「記録」のかたち

墨で書かれた文書は1300年の時間が経過しても鮮明に文字が残る、当時の政治文化などを研究する上で非常に重要な情報を提供する媒体でもあります。新型コロナウイルス感染症防止策の一つとして以前ご紹介した「ハンコ」とともに紙面による文書を減らし電子媒体による記録の保存がさらに推奨される傾向がみられますが、これまでの歴史を振り返ると、後世まで「確実に」残される「究極の記録」は、墨書による記録のみであるかもしれません。

(井上信隆)



筆を使用した書(伊加梨)の痕跡(豊前国府跡出土)